

名古屋

石田学園報

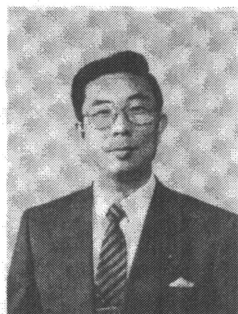
第3号 平成5(1993).12.10

名古屋明德短期大学
星城高等学校
星城中学校
星の城幼稚園
名英予備校
名英図書出版協会

「自己点検・自己評価」

理事長・学園長 石田正城

景気の低迷が3か年間に亘って続いています。現在の日本列島は38年ぶりに政治が動き、39年ぶりの悪天候と熱さと冷たさが入り交じりながら大きく変わろうとしています。政治の大津波、円高台風、そして消費の異常低温続き、さらに出生率の低下から学生生徒の急減ピークが大学入学時の18歳年齢まで達し、学校の存在も土砂崩れにと、まさに歴史の転換期を迎えたといっても過言ではありません。そして今、教育界では、「自己点検・自己評価」という言葉が盛んに使われています。即ち、「教育者は生徒、学生を評価する前に自分自身の指導力を評価すべきである。」という声であります。急速な科学技術革新化、情報化、国際化、高齢化等々の社会変化に対応して、今や多様で個性ある高度の能力と知識を身につけた多数の指導的役割を果たす人材が求められているにもかかわらず、教育界はなにをしているのだろうかという不信感・批判が限度にきたのです。



昭和61年の臨時教育審議会、並びに平成3年の大学審議会答申は大学・大学教育改革の方向を具体的に提示いたしました。大学は最高の教育機関として、また学術文化の研究機関として自主的、自律的な判断と努力によって学問と文化を伝承し発展させる社会的責任を負っているのです。そのためには大学自らが不断の自己点検・評価を行い、改善・改革への努力を行うことが重要であるというものです。この事は他山の石、大学のみではなく本学園傘下の各学校にもあてはまることで、学園50年の伝統に胡座をかいてある面が多々できていると思います。例えば教科1単位の

履修時間数が定められているにもかかわらず、その時間数を最低と見ずに80%ぐらいクリアーしていれば良いという安易な基準を設定して、またこれで正しいという認識に甘んじてきたことです。その結果、実質的に授業を行わない日が増え、また授業を実施している期間中に父兄会等の教科履修に関係のない行事が行われていても別に不思議に思わなくなってしまったのです。そのため、十分な指導がされないままに「今の生徒は、学生は」と社会から批判を浴び、彼等が犠牲になってきているのです。この責任はまさに我々教師にあるということを実感しなければなりません。恐ろしいもので慣れというのか、マンネリ化というのか、段々安易な方向へ流れ、大変な姿になってきていてもなかなか気が付かない面が多くでてきていると思うのです。

この際「自己点検・自己評価」をしっかりと心にとどめ、本来の教育者としての姿勢を堅持し人格形成に励むべきであります。そこで本学園の教学運営会議では、今年度、この「自己点検・自己評価」をテーマに掲げこの4月から各学校でも検討をして頂いております。各学校とも自主的に活性化の方向を見出だして頂きたいと願っています。

星城中学校にも

創立者石田鑑徳先生の胸像設置

本年4月開校した星城中学校に、創立者石田鑑徳先生の胸像が、各方面からご芳志を頂いて設置されることになり、去る10月30日除幕式が行われた。そして10月30日は星城中学校開校記念日とされた。鑑徳先生の像は、すでに高校、幼稚園、短大に立像、予備校に胸像があつて中学校にのみ無く、画龍点睛を欠く憾みがあつたが、これで学園傘下の学校すべてに設置されたことになる。先生が示された建学の精神が、中学校にも具現化されることが切に期待されることである。

短大入学式・国際文化科開設記念式典挙る

昨年春12月21日、名古屋明德短期大学に国際文化科を新たに設置することが文部省より許可された。以来、新学科開設の準備が関係者により鋭意進められてきたが、去る5月28日、国際文化科開設記念式典が、短大体育館を会場として盛大に挙行された。

地元愛知県選出の国会議員をはじめ、愛知県・東海市の公職者、県内外の大学・短大の理事長・学長のかたがた、愛知県及び近県の公私立高等学校関係者、新聞・テレビのマスコミ関係者等多数のかたの出席を得て、時代の脚光を浴びる新学科の発足にふさわしい華やかな記念式典となった。

理事長・学長より、それぞれの挨拶のなかで新学科設置の趣旨とその特徴についての説明、今後の短大の運営についての抱負、関係方面の協力に対するお礼等が述べられた。

式典に際しての記念行事として、慶応義塾大学法学部の池井優教授の講演が行われた。「もう一つの日米摩擦—在日アメリカ選手論—」という演題の、プロ野球の選手の突



記念式典

名をあげた、興味深い内容のもので、聴衆に深い感銘を与えた。

式の後、国際文化科の看板科目である「現地演習」に関わりのあるゼミが公開された。松原講師の日本国内、スナイダー講師のアメリカ、前田助教授・秋山講師のインドネシア等、洋の東西にまたがる地域に関するゼミで、まさに国際文化科らしい展開であった。来賓のかたがたはこの公開講義ゼミに深い関心をもって新築の校舎の各講義室を回っていた。

記念式典に先立ち本年4月3日(土)には、第5回の、国際文化科にとっては第1回の入学式が既設の英語科と



スナイダーゼミ

もに挙行された。

理事長及び学長から新入生に対し大学生活においてなにを学び身につけるべきか淳々と訓示された。

各学科ごとのオリエンテーションが、一部すでに入学式の前日からも行われた。国際文化科では、国内、ヨーロッパ、英米語圏、東アジア、東南アジアの各地域研究という専攻のコースを選び、それぞれの地域研究に応じた「現地演習」という科目を履修することになっているが、第2年次には、その科目の一環として、国内または海外の関係地域に赴き、現地の実状に即したいわば「現地での演習」を行うことになっているので、コース選びを中心としたオリエンテーションが担当の教員によって懇切に行われた。国内外の文化に対する関心のある学生が入学してきたので、先生がたの説明を熱心に聴いて自分の選択の参考をしていた。

例年のように新入生の合宿オリエンテーションは伊良湖のホテルで行われた。

いよいよ講義も始まり、先生がたも新学科の看板科目の講義に全力を注ぎ、今年の春から夏にかけては、来年の「現地での演習」に備えて、予定地の下見に赴いた。国内は東北・九州、海外はオーストラリア・アメリカ・インドネシア・ギリシア・イギリス等である。

たくさんの女子学生を預かっての「現地での演習」であり、特に海外に関しては、すでに英語科で経験済みのオーストラリア以外は初めての土地なので、安全確保にはどのような事前の配慮・準備が必要か、そして現地でなにをどう学ばせるのが最も効果的でこの科目の趣旨・目的にかなうか等の観点から慎重に視察が行われた。本年の「現地演習」の講義と、その実習である明年の「現地での演習」の成果が期待されている。

星城中学校第1回入学式・開校記念式典挙行さる



開校披露祝賀会

かねて申請していた星城中学校の設立が、昨年度末平成5年3月22日、愛知県知事より認可された。

その第1回入学式が4月4日に、開校記念式典（開校披露祝賀会）は6月5日に、それぞれ真新しい校内の仰星ホールにおいて挙行された。

入学式は、厳選された43名の生徒を迎えて、地元県議会議員、豊明市長以下豊明市の公職者、教育関係のかたがた、星城高等学校父母の会会長、同校同窓会長及び同校幹部教職員の列席のもとに厳粛に挙行され、理事長でもある石田正城校長から「感謝のできる実践力に富んだ逞しい人間の育成」という星城中学校の教育目標の趣旨の説明とともに、この趣旨に応えるよう新入生への熱い期待と心からの励ましをこめた式辞が述べられた。

開校記念式典は、愛知県知事、私学振興室長、地元県議会議員、豊明市長、豊明市議会議長以下豊明市関係の公職者、豊明市内小中学校長、近隣市町村校長会長、県内私学理事長・校長、各塾団体長、新入生出身小学校長、保護者、その他学園の理事・監事・評議員、各部門の幹部職員等の来賓が多数出席して、新しい中学校の発足を祝うに相応しい喜びの溢れる盛大な式典であった。

石田正城校長から星城中学校の設立の趣旨として、この学園の建学の精神、即ち「報謝の至誠」、「文化の創造」及び「世界観の確立」の具現化と中高一貫の教育による教育効果の向上について、続いて「一人ひとりを大切にしたい親身の指導」「生徒の個性・長所の伸長」「実践力に富んだ逞しい人間の育成」という中学校の基本方針について説明があり、設立に協力してくださった各方面への感謝の言葉が述べられた。各来賓からは中学校の発足を祝すとともに

に、設立にいたる学園の努力を称え、その前途を期待するはなむけの言葉を頂いた。

式の始まる前に記念行事として、中学校の教育顧問の先生がたによる公開授業が行われた。

愛知教育大学名誉教授でもある名古屋明德短期大学英語科学科長後田忠勝先生による英語、前仰星館長佐竹義憲先生による数学の授業が行われ、先生がたの練達の授業に対する生徒達の鮮やかな反応ぶり、熱心な授業態度に、厳選された生徒達の素晴らしい素質が何われて今後の教育効果に深い期待が寄せられ、中学校の前途の洋々たるを思わせたのであった。

入学して2か月足らずの生徒たちが、来賓の誘導、受け、式場への案内の補佐役等にきびきびとした態度で臨み来賓のかたがたに大変好評を頂いた。

専光坊にて内観研修

座禅を組む



内観研修

星城中学校へ入学した生徒43名は、自分の内面を静かに見詰める、即ち内観の研修として、第1班は7月26日から8月2日まで、第2班は8月2日から8月9日まで、三重県多度町の専光坊で座禅を組み、毎日一汁一菜の厳しい修行を行った。

日頃親元で暖かく育ってきた生徒達は、日常生活と違う環境と規律、食事に始めは戸惑いつつも直ぐに順応し若い生命の逞しさを感じさせた。

日常生活とは異なるこの体験が、生徒たちの、内面の豊かな逞しさを少しでも培うことができたと願うところである。

国際交流

国際交流に積極的に取り組んでいる本学園では、今年も星城高等学校と名古屋明德短期大学を中心に活発な交流をしたり、またその準備を進めている。

◎星城高等学校



シドニー市庁舎を訪問

星城高等学校から姉妹校へ留学

オーストラリア

バララット校へ	7月	2か月	3名
ウェスレー校へ	8月	1か月	5名
スケッグズ校へ	8月	3か月	7名

姉妹校から星城高等学校へ留学

オーストラリア

ウェスレー校より	8月	1か月	19名
ジロング・グラマー校より	11月	6週間	1名
スケッグズ校より	11月	2か月	5名

・ウェスレー高校より8月に来日した19名の生徒は、9月1日の始業式以来、1か月にわたり星城高等学校での授業参加を中心に、明德短大の授業にも参加、明治村、トヨタ自動車をはじめ名古屋及び近郊の文化・産業施設を見学して、9月末に帰国した。

親善訪問

星城高等学校校生18名オーストラリアの5高校へ

7月17日から7月29日までの2週間

訪問校

スケッグズ校 ウェスレー校

メントーン・ガールズ・グラマー校

グラモーガン校 バララット校

各地で盛大な歓迎を受け、また名古屋の姉妹都市シドニーでは市庁舎を訪問歓迎された。

現地の新聞に星城生訪問の記事

7月26日付バララットの現地の新聞「クーリア」に、和服姿の星城の大脇先生と生徒の黒川さんがバララット校生にお茶のお手前を披露している写真が掲載された。また18人の星城の生徒は、伝統的な日本の踊りとお茶のセレモニーで現地の生徒を驚嘆させたとも記されている。

◎名古屋明德短期大学

国際文化科現地演習の準備進む

国際文化科は学生の「現地での演習」の場として、海外ではイギリス・アメリカ・インドネシア等が予定されている。
・10月13日アメリカ・フロリダのバームビーチ・アトランティックカレッジ (PBAC) のマイケル・シモノウ学科長が来日し、本学を表敬訪問された。会談では今後の協力関係について、公式に具現化する意思を表明して、そして相互の提案事項について早期に検討し、返答する旨の趣意書の交換を行った。

来春実施される現地演習の内容

アメリカ (スナイダーゼミ)

ウェストバームビーチ市のバームビーチ・アトランティック大学で1週間、アメリカ文化についての受講と学生交流の後、オーランド・ディズニーランドで研修。

オーストラリア (小林ゼミ)

シドニー市郊外の農場で研修滞在の後、シドニー市でテーマ別研修。エアーズロックを見学の後、タウンズビル市のジェームズクック大学で学生と交流

日本 (畑中ゼミ)

遠野市を中心に宮沢賢治にまつわる各種施設を見学し、資料に接して研修。

英語科の海外語学研修

英語科では、今年度は、オーストラリアのディーキン大学と短期語学研修留学の話しを進めている。

・11月1日から4日までオーストラリアのディーキン大学のイアン・スロクウィッチ先生とデニス・ファルージャ先生が来日し、本学を表敬訪問された。本学で教授陣同士のミーティング並びに学生との懇談を含め4日間にわたる交流を持った。現在交流に関する覚書きの交換手続きの準備を進めている。

留学の内容

期間 1994年2月14日から3月11日まで

内容 英会話とオーストラリアの歴史と文化の研究

宿泊 ホームステイ方式

教学運営会議より

本年度のテーマは

「自己点検・自己評価」

昨年度の教学運営会議においては「建学の精神の具現化」というテーマで、各部門の教学関係の代表が意見を交わし、それぞれの実践状況を報告しあったが、今年度は、「各部門の自己点検・評価」をテーマとして意見を交わしあっている。

本年度第1回の会議は、6月30日に名古屋明德短期大学で、第2回目は、9月13日に星城高等学校で行われた。

平成3年6月大学及び短期大学の「設置基準」が改正公布され、平成3年7月1日より施行されているが、短期大学については、「(同基準の第2条第1項)短期大学は、その教育研究水準の向上を図り、当該短期大学の目的及び社会的使命を達成するため、当該短期大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うことに努めなければならない。(同条第2項)前項の点検及び評価を行うに当たっては、同項の趣旨に即し適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行うものとする。」とされ、教育研究活動はもとより、業務全般の状況について自己点検・評価することが義務づけられた。以来、全国の大学・短大ではこの課題に取り組み、学内に委員会を組織し、自己点検・評価の目的・項目等についての検討をしており、現にかなり進めている大学もある。

こうした状況に先だって、財団法人大学基準協会から「大学の自己点検・自己評価の手引き」というパンフレットが発行され、自己点検・評価の意義、あり方、組織・体制、点検・評価する場合の具体的な重要項目と視点等について情報を提供しているので、本学園でもそれを参考にしながら各部門で研究を重ねている。

教学運営会議では、すでに平成4年1月16日の会議で、改正されたばかりの「短期大学設置基準」につき、自己点検・評価をテーマに学習会をもち、高橋短大学長から設置基準改正の内容について詳細な解説があったが、本年度は、学園全体の問題として積極的に取り組み、短大のみならず各部門ごとに自己点検・自己評価をして、それぞれの業務の状況を反省し、今後の改善に資するようにしようとするものである。それにはどのような取り組みかたをすべきか、それぞれ業務の異なる部門で共通になすべき点はなにか、ということなどを話し合い、かつ部門ごとに実践しつつあることを発表することになっている。そして「自主的な」点検・評価という名目の陰で独り善がりに陥ることのないよう、相互批判をする必要があらう等々、この会議では活発な意見の交換がおこなわれている。



第1回会議 短大にて

第1回は、短大の学長はじめ英語・国際文化両学科長からこのテーマを取り扱う組織の編成問題について現状の報告があった。そのなかで、学校の教育運営要項というべきものがあればそれを手掛りにして評価を進めるとよいのではないかという意見も述べられた。また組織の編成や評価の性格についてもいろいろな角度から論議がなされた。

第2回は、高校の学監から、評価について(1)概念の明確化の必要(2)実践組織の編成のしかた(3)評価と評定の区別という問題を取り上げて報告があり、それを巡って質疑応答が行われた。また高校の業務とそれを自己点検・評価する担当組織についても報告があった。

第1回、第2回とも他の部門からも現在進めている状況について報告があった。

どの部門も、従来年度末の業務の反省という形では実施してきている内容なのであるが、改めて自己点検・評価として組織的に取り組みかかってみると、大筋の方針は立てても、実践はまだこれからという段階である。

短大・高校のように組織の大きいところと幼稚園や法人本部のように規模の小さいところでは取り組みかたも異なってきた。短大では、まず理念をきちんと立て、あわせて組織のありかたを検討し、それから各論に及び、実践へ移るといようなスタイルである。それに対して法人本部のように小規模の部門では、基本的な考方を一応ふまえたうえで、なにはともあれまず日常携わっている手近かな業務から点検を始めようとして取りかかっているが、現状は必ずしも組織的とはいえない。その他の部門も、その規模・業態によって取り組みかたもいろいろである。今後の討論のなかで、学園としての一定の方式が確立できることが望ましいが、少なくとも各部門がその規模・業務の性格に応じた方式を樹立し、それをマニュアル化し、業務の推進の糧となる点検・評価ができるようになることが望まれる。

第3回は、12月6日に開催予定、これまでの取り組みのうえにたって、各部門は、明年度それぞれ「自己点検・評価」の進め方についてどのような構想を持っているかを発表し、意見を交すことになっている。

部門だより

◎名古屋明德短期大学

◎公開講座始まる

平成3年度から始まった公開講座は今年で3年目を迎えたが、本年度は、10月2日(土)から12月11日(土)まで5回にわたり、本短大の先生がたを講師として始められた。

講師とテーマは次のとおりである。

(敬称略)

1. 佐伯康子 「オーストラリアと日本」
2. 早川雅水 「フランス人と人間の命」
(エイズの犠牲になったフランス人のために)
3. 前田俊子 「家族の多様性」
(日本とインドネシアの母系社会との比較において)
4. 後田忠勝 「国際化時代の日本—その展望と課題—」
5. 秋山 豊 「地域で国際化を考える」

◎秋桜祭

11月1日から3日まで短大祭の第4回「秋桜祭」が「大和撫子」というテーマで行われた。

◎星城高等学校

大学進学 本年度も成果

星城高等学校は、仰星コース、特進コースを中心に大学進学に力を入れてきたが、本年度も京都・一橋をはじめとする国公立大学、慶応義塾・上智以下の私学に多数の合格者をだしている。

主な大学の合格状況

・国公立大学

京都大1、一橋1、名大3、名工大2、愛教大4、横浜国立大1、金沢大1、岐阜薬大2、名市大1、愛知県立芸大1以下延べ35名

・私立四大

慶応義塾5、上智1、明治2、法政1、東京理科1、同志社6、立命館2、関西3、南山5、愛知6、名城16、金城1、相山1以下延べ220名

・私立短大

金城短大1、名古屋明德短大30、以下延べ105名、

・その他 専門学校 計210名

すでに6年度の私学の推薦は始まっており、今年も後半にかけて、いよいよラストスパートをかける時が迫りつつある。その成果が期待される。

◎星城中学校

第1回感謝祭行われる

本年4月開校した星城中学校は、その教育目標の「感謝のできる実践力に富んだ逞しい人間の育成」の実践の発表の場とするを目的として、10月2日、3日の両日にわたり、第

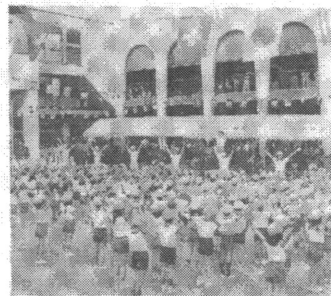


内観研修体験発表会

1回感謝祭を実施した。その内容は、(1)7月から8月にかけて多度の専光坊で行った座禅による内観研修の体験発表会 (2)化石研究等の発表 (3)絵画、粘土による面等の作品展示 (4)体操・ダンス・コーラスの演技発表等で、保護者の参加も得て、生徒43名一致団結して素晴らしい成果を挙げた。

◎星の城幼稚園

第22回運動会は9月23日(祝)の予定であったが雨天のため順延され9月24日(月)に公職者の来賓と保護者をたくさん迎えて盛大かつ華やかに行われた。



運動会

◎名英予備校

大学・短大が新設、学部・学科増設のラッシュで窓口が広くなるのと逆に、高校生の減少という予備校にとっては厳しい状況のなかで、夏期講習会・冬期講習会など季節ごとの講習会を開催するなどして教育内容を充実し、予備校生の進学に努力している。

また名英独自の事業として、南山・愛大・名城の模試を臨場感を持たせるためそれぞれの大学を会場として実施している。

◎名英図書出版協会

学園主催の第42回東海三県中学校英語弁論大会が図書出版協会の担当で、11月3日文化の日に星城高等学校石田記念館で行われた。

参加者は72名

優勝県知事賞・学園長賞 石川哲也君 日進東中

星城高等学校と私

星城高等学校 柴田 清



私の教員生活40余年のうち、28年間は星城高等学校とともに歩んできたことになる。名城大学数学科を卒業して、一旦公立学校に就職したが、縁あって星城高等学校

にお世話になることになった。それは、星城高等学校が、創立3年目を迎え、3学年全部が揃って、軌道に乗りはじめた頃であった。

この間片時も忘れることにできないのが、今は亡き創立者石田鑑徳先生のことである。先生は、人情味豊かで、だれとも百年の知己のように語られた。

先生は、大学生の頃九州を旅したとき、すでに亡くなっていた親友の母上にお世話になったことがあった。その時のお年寄りのやさしい気持ちがいままで忘れられず、後に生徒を引率して九州へ修学旅行で出かけたとき、亡友の母上の住むその町のお年寄りを大勢招いて、お礼の気持ちを述べると同時に、一人ひとりに土産までも手渡されたのである。

星城高等学校も創立30年を迎え、いろいろなことがあったが、途中、忘れ難いことの一つは中学校の生徒減による応募者の激減であった。また、当時は、各地で学園紛争があり、本校もそのあおりを受けざるをえなかったが、わが校は、強い教育の理想に燃える故石田鑑徳先生のもと職員が一丸となって学校の正常化に取り組んできた。

そんな折しも折り、鑑徳先生が突然の病に斃られ、学園一同深い悲しみに包まれてしまったが、その後を継ぎ校長に就任された新進気鋭の御子息石田正城先生(当時31歳)は、特に「和を以て尊しとなす」をモットーに、まず職員の融和と団結を最優先に考え、校内の諸問題をひとつひとつ着実に解決された。「誓いのことば」の具現化、生徒指導の徹底、校内の環境美化、教材研究の深化等々具体的な行動目標を掲げ、全校一つになって地道な実践に取り組んだ。日を重ね、月を数えるにつれて、生徒の生活態度や学習への取り組みは目に見えて変化してきて、各種のテストの成績も次第に向上してきた。こうした状況をふまえ新校長は、大学進学の実績を挙げるため、一人ひとりの能力を最大限に伸ばす「仰星コース」の新設に踏み切った。

スタート当初、このコースの成果について危惧する声も

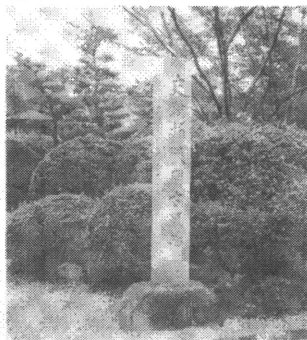
あったが、全寮制度の導入による24時間の指導体制が効果を挙げて、初年度の卒業生から国公立大学への合格を出し、進学校としての足場を築くことができた。星城高校の評価は急速に高まり、各中学校からも次第に優秀な生徒が応募してくるようになり、現在では、私立高校の中で国公立大学への進学者数は県内の上位に位置するまでになった。

私は、星城高等学校30年の歴史とともに歩いてきたが、今後も一人ひとりの生徒を大切にすばらしい学園づくりに努力していきたいと思っている。

<地元地域紹介>

豊明市

本学園の星城高等学校、星城中学校、星の城幼稚園が位置する豊明市は、名古屋市の東南に隣接して名古屋のベッドタウンとして発展してきたが、昭和47年8



高徳院前の古戦場碑

月、人口3万7千で

市制施行。平成5年8月現在人口は約6万3千。「豊かで明るく健康なグリーン文化都市を求めて」新興都市としての整備に努力している。豊明市は、星城高等学校の他にも藤田保健衛生大学等、大学、短大、高校があつて名古屋東南部の文教都市であり、また、一般機械、特殊な電機機器(業務用製氷器)、出版印刷、食品製造等の工業を有する産業都市でもある。

「豊明市」の名は全国的には有名でなくても「桶狭間の古戦場」の名は全国的に知れ渡っている。

永禄3年(1560)、天下支配の野望に燃えた今川義元が上洛のため大軍を率いて大高城へ向かう途中、田楽狭間の松林(現在名鉄中京競馬場駅西南の高徳院境内)で、織田信長に急襲され、義元みずからあえなく首をとられて敗退。信長はこれから天下布武への第一歩を踏み出すことになった。歴史の大転換の起点ともいふべき戦いが展開された古戦場である。今、高徳院より西南1キロの名古屋市緑区の有松地区に桶狭間という地名があるが、義元が討ち取られたのは、正しくは田楽狭間であるということである。高徳院門前の公園には「今川治部大輔義元墓」(明治9年建立)が建っている。

学園表彰

平成5年度の学園表彰者は、次の通りである。

(敬称略)

勤続30年	鈴木 勝	星城高等学校
20年	神谷 耕三	〃
10年	外山 昌子	〃
〃	長谷川真規子	〃
〃	森岡 稔	〃
〃	山尾 登美吉	〃
〃	高木 實	名英予備校
〃	各務 寿彦	名英図書出版協会
〃	杉本 篤	〃

10月下旬、各部門ごとに学園からの賞状と記念品が本人に渡された。

第3回事務職員研修会

実践に繋がる内容で盛会

学園の第3回事務職員研修会が7月29日(木)終日にわたり、名古屋クラウンホテルで、41名の参加のもと行われた。

午前は、法人本部から私学共済年金の解説、学園の将来



接遇に関するロールプレイング

計画構想の説明があったあと、講習として、中部産業連盟の村田識行氏の「ビジネスコミュニケーション」、名古屋明德短期大学非常勤講師今泉成子先生の「ビジネスマナー」の講義があった。

午後は、体験学習として、男子職員を対象に村田識行氏の「生産性向上に寄与する管理者の態度形成(行動変容)と部下の動機づけ」、女子職員を対象に今泉成子先生の「接遇に関するロールプレイング」の実習があった。

今回の講習は実践に即した内容のものであり、実習は接遇などを体験的に実践したりして、参加者はみな真剣に取り組んでいた。参加者のアンケートによっても評判がよかった。

元本学園理事 竹内 實先生

愛知県教委表彰を受けられる

元本学園理事・名古屋明德短期大学事務長・現名古屋明德短期大学客員教授竹内實先生は、11月3日文化の日に愛知県教育委員会より、永年の教育への功勞により表彰を受けられた。先生は、本学園へみえる前は愛知県立半田高校の校長でありまた愛知県公立高校長会長の立場にあつて県の教育に多大な貢献をされたが、本学園へみえてからは、理事として学園全体の運営に力を尽くされるほか、名古屋明德短期大学の開設の中心となつて活躍された。そして今も名古屋明德短期大学の客員教授として学生の指導に当たつてみえる。この度の先生の受賞を学園としても誇りとし心からお慶びしたい。

私学振興財団の事前調査指導と

私学振興室の指導検査

7月14日(水)日本私学振興財団の補助金に係る事前調査指導が名古屋明德短期大学で行われた。

短大の専任教員の発令・給与・勤務等、学生定員・現員・入学者等、及び学生納付金等について、今後の文部省監査に備えた綿密な事前調査指導が終日にわたつて行われた。

7月30日(金)には愛知県私学振興室の指導検査が名英予備校校長室で行われた。法人及び傘下の各学校の組織・規程・給与・研修・経理等について細部にわたる検査があつた。

いずれも事前に各部門とも書類を整えて対応をしたので特に大きな問題もなく済んだが、なお部分的には改善の余地のあることが分かつた。

<編集後記>

平成5年度はわが学園にとって記念すべき年となつた。即ち、滔々たる国際化の波の中で短大には国際文化科が新たに設置され、一方、中高一貫の教育を目指して中学校が新設されて学園の学校体系は一段と整つたものとなつた。幸い各方面の期待は大きく、それぞれの着実な発展を見守つて頂けるようである。それに応じて短大、中学は独自の教育内容を考え、実践した実践のウォーミングアップをしている。

学園が教育の対象とする幼児・生徒・学生の数は益々減少の一途を辿りつつある。経営的にみれば年々深刻な状況になりつつあるのである。その中で学園の維持発展を図るには、経営的努力は勿論だが、教育内容を一層充実することにより、世の信頼を高め、ひいては、経営的にもより高い安定性を確保することがこれからの課題であろう。